



震災文庫 11 - 285

00097007079

まえがき

今後の地震災害を最小限に止めるべく、阪神・淡路大震災について様々な角度から学術調査が実施されています。理学・工学各分野では、過去の設計製作に関わる安全基準の見直しが行われ、既に新基準の運用を開始している分野も多いと聞いています。(社)低温工学協会では、早期に被災調査臨時委員会を発足させ、極低温・超電導機器を対象に調査を行いました。

大学や企業の研究所に設置された極低温実験装置は、通常その分野の研究に従事する専門家が取り扱いますが、近年、広範囲に普及した化学分析機器としての超電導NMRや、医療用超電導磁気共鳴画像診断装置(MRI)などは、必ずしも極低温技術者が管理しているとは限りません。今回の調査では、それらの装置が地震の影響をどう受けたかのみにとどまらず、被災後の処置方法や二次災害防止策の有無などについても調査対象としました。

極低温機器の多くは、関係する各工学の基準を適宜採用し、安全確保に対処していますが、独自の視点に基づく安全基準の作成には至っていません。しかし極低温・超電導機器が一般に普及するにしたがって、本分野独自の安全基準の必要性が高まってくると予想されます。今後の具体的な基準作成作業において、本調査報告が問題発掘および解決の一助となれば幸いです。

阪神・淡路大震災における低温・超電導機器被災調査臨時委員会

委員長	平林 洋美	核融合科学研究所
委員	石郷岡 猛	成蹊大学 工学部
	石山 敦士	早稲田大学 理工学部
(兼事務局)	岡崎 治	大宝産業(株)
	荻野 治	三菱電機(株)
	荻原 宏康	湘南工科大学 電気工学科
	川手 剛雄	(株)神戸製鋼所
	佐藤 明男	金属材料技術研究所
(兼事務局)	西垣 和	神戸商船大学 超伝導科学教室
	西嶋 茂宏	大阪大学 産業科学研究所
	野口 隆志	池上技術
	春山 富義	高エネルギー物理学研究所
	藤岡 耕治	大同ほくさん(株)

協会内協力：関西支部、冷凍部会、超電導応用研究会